

広島県知事
湯崎 英彦 様

平成 29 年 3 月 29 日
認定 N P O 法人 乳がん患者友の会きらら
乳がん患者会 福山アンダンテ
なごみの会

乳房再建への公費助成に関する要望書

平素より「がん対策日本一」の実現へのご尽力・ご助言に厚く感謝申し上げます。

さて、日本における乳がんの罹患率は近年増加の一途をたどっており、女性のがんの中で最も多いがんとして、毎年日本人女性の約 74,000 人（11 人のうちひとり）が新たに罹患しています。女性における部位別のがん統計においても乳がんがもっとも多く、国民的関心は高まる一方であるといえます。ⁱ

一方で、乳がんは早期に発見し適切な治療を受けることで、その 5 年生存率は約 89%ⁱ に達するがんでもあり、各自治体の取り組みをはじめ、全国において乳がん検診の推進と啓発には大きな力が注がれているところです。広島県においては、平成 26 年度の乳がん検診受診率につき全国平均の 26.1% を大きく上回る 35.5%ⁱⁱ であり、まさに「がん対策日本一」を掲げた大きな取り組みに改めて感謝申し上げます。

乳がんは、早期発見と適切な治療によって比較的高い生存率が実現されるがんですが、罹患する女性たちの年代をみると 40 代がピークであり、恋愛・結婚・出産・子育て、といった人生の多くの重要な転機を迎える年代であり、また職場では大きな責任を伴う仕事を任されるようになりキャリアを積んでいくための重要な年代の女性たちです。結婚・出産・子育て・仕事の上に乳がん罹患と手術が押し掛かり、乳がんを克服してなお、女性たちにはその先の長い人生を充実させ生き生きと過ごしていく希望があるべきところ、社会復帰し家庭を元通り維持していくまでの道のりは決して平坦ではありません。女性たちが乗り越えなければならないものは、決して生存率には現れず、乳がん罹患によって多くの女性たちが社会から離脱し多くのものを諦めているのが実情であると、日ごろの患者会の活動を通じて実感するところであります。

乳がんの治療では、大多数の患者は乳房の一部、または全てを摘出するという決断をしなければなりません。それは、女性にとっては重大な人生の決断であり、社会復帰においても大きな影響を与えています。

乳房の全摘出をした患者に対しては「乳房再建術」が有用であるとされ、従来から行われていた自家再建に加え、2013 年には人工乳房を用いた乳房再建術も新たに保険適用となりました。このため、近年では乳房再建術を受ける患者が増えており、その広がり期待されているところではありますが、一方で乳房再建を知らない・受けられないとする患者の声が多く聞かれ、必ずしも乳がん患者が希望する社会復帰までの道のりに乳房再建の選択肢が示されていない・選ばれていないという状況が浮かび上がってきました。人工乳房での再建の場合は認定を受けた施設・医師による手術が認められておりⁱⁱⁱ、広島県内では人工乳房再建の当該認定を有する施設も充実しているにも関わらず、推計では乳房再建術を受ける患者の数は全摘患者のおよそ 2-3 割にとどまっています。

こうした状況の要因として、乳房再建をしていない患者の声を聞くと、「（乳がんが治ったのに、さらに）乳房を取り戻すことを希望するのはわがままではないか？」「周りからの理解が得られるか？」「子供の教育費が優先ではないか？」「今更嫁に行くわけでもないのに、と言われて・・・」などといった近親者への遠慮によって、自身の希望を声に出さず乳房の喪失感を抑え込もうとする気持ちがあるということが分かっています。さらに、「乳房再建を知らなかった」、「費用面から断念せざるを得ない」ということも聞かれます。また「合併症や再び体に傷をつけることへの抵抗感」も理由として挙げられていますので、患者会としてはこれらの不安や情報不足を補い、女性が自分の人生のために正しい情報に基づいた決断をするためのサポート活動を行わせていただいています。

乳房再建手術を受けるか否かは最終的に患者さんの選択であり、受けない患者も当然います。ただ重要なことは、患者が十分に考える時間と情報があり、自分の判断で受ける・受けないを決めるということです。乳房再建の実施有無にかかわらず、乳房再建に関する検討をした患者さんと一切しなかった患者さんとを比較すると、乳房再建に関する検討をした患者さんのほうが、（乳房再建を最終的に行わなくても）その後の情動機能が改善したという報告もあります^{iv}。したがって、乳房再建を行わなくても、乳房再建を知り、その検討をすることは患者さんがその後の人生を生き生きと過ごしていくために良い効果があると考えられます。

さらに、別の患者会によるアンケート調査結果^vでは、乳房再建をしていない患者の声として、「温泉やスポーツジムに行けなくなった」、「好きなおしゃべりができない」等の女性らしい楽しみが制限されることの苦痛を訴える人もいるとのこと。一方、乳房再建をした患者の声としては、「前向きになれた」という精神面のプラスの他、「温泉やスポーツジム、海水浴に行ける」、「好きな洋服を着ることができる」など人目を気にせずアクティブに活動できる喜びを挙げる人が多いとのこと。「がん対策」だけにとどまらず、「輝く女性の活躍の推進」という観点でも、乳房再建という手段を知り、「受けない・受けられない」障壁を取り除くことは理にかなっているものと考えます。

私たちは、広島県が「誰ひとりとして、乳房を失ったことでその後の生活が困難になることがない」県であってほしいと願っています。県が乳房再建に対する公費助成を行う事は、県民の活力を生み出すための政策であると考えます。乳房再建は特別なことではなく、誰もが当然のごとく有している選択肢であり、心理的な遠慮のために受けられないあるいは経済的な理由から断念するといったことがないよう、県全体で「誰に遠慮することなく乳房再建を検討できる環境」が構築されることは、人々がより前向きに治療に臨める環境整備であり、さらに言えば、結果を恐れず積極的に検診を受ける意識の向上への推進力にもなり得ると期待しております。

上記をふまえ、私どもは下記の通り要望いたします。何卒格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

【要望】

以下、2点を要望いたします。

1. 乳房再建に対する公費助成の実施
2. 乳房再建への公費助成の公告

【参考資料】

1. 国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター 3年報告会
2. 広島県内の乳房再建に関する認定施設
3. 乳房再建に関する認定制度の概要
4. 保険診療下での乳房再建費用（概算）
5. 乳がん体験者の自己概念の変化と乳房再建の意味づけ

以上

ⁱ 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター2016年07月25日更新最新がん統計
(http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)

ⁱⁱ 広島がんネット
(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/souki-souki4.html#souki4e>)

ⁱⁱⁱ 日本乳房オンコプラステックサージヤリー学会

^{iv} 社会福祉法人 はばたき福祉事業団研究報告書
(<http://www.habatakifukushi.jp/res/breastcancer.pdf>)

^v 特定非営利活動法人 Empowering Breast Cancer
(http://www.e-bec.com/wp-content/uploads/reconstruction_report_1604.pdf)